

平成 19 年度岡崎市教育研究大会レポート

12	道徳
----	----

岡崎市立竜海中学校 荻原正直

1 研究のテーマ

心豊かに、たくましく未来を拓く道徳教育
「イタイイタイ病」の実線を通して

2 研究概要

(1) はじめに

本校の総合的な学習の時間において、一年生では自分の過去を振り返る活動から、将来の自分のあり方について学習を進めてきた。そして二年生では、就職を意識して、社会人として必要とされる素養を身に付けたり、実際に職業体験学習を行うことで、社会に夢や希望を抱いて進んでいく活動を進めている。

将来なりたい職業を選ぶポイントとしては、「収入」や「かっこよさ」、「やりがい」などがあがっているが、特に収入だけにこだわる子も少なくない。1960年代～1970年代の高度経済成長期の影の部分である公害に焦点を当てることで、命の大切さや人を思いやる大切さに気付くようにしたい。また、それを踏まえて将来の自分のあり方を考えることができるようになってほしい。

(2) 研究の視点

共に考え、主体的に自己課題に取り組むことのできる資料の開発

資料としては、総合的な学習との関連性があることをふまえ、以下の2つの内容を前提に作製した。

- ・「命」のとらえ方を明らかにする。
- ・公害「イタイイタイ病」を4つに区切り、読みやすくする。

心に響く「道徳の時間」の指導法の工夫

- ・資料は、十分にテーマについて考え、意見を言わせてから実際の内容を把握するために配布する。
- ・終末のあり方の工夫 総合的な学習の時間との関連を生かして

総合的な学習の時間における、将来の自分のあり方や就職との関連を生かすことが道徳の授業の終末でできれば、自分の生き方や考え方を大きく変えることができるだろうと考え、実践を行った。

(3) 考察

資料の開発について

命についてのとらえ方

「命」は大切なものである。それば誰もが知っている内容である。しかし、毎日のようにニュースや新聞で、事件や事故、災害などによって、人の死について報道されている。

生徒に命に関するアンケートを実施したところ、やはり、「命」=「死」というイメージが強かった。逆に「命」=「生」ととらえる生徒は1名だけであった。

これらの生徒のイメージは、やはりニュースによって作られたものであり、身近なとこ

命から連想される言葉

- ・死ぬ
- ・事故
- ・いじめ
- ・自殺
- ・地震
- ・過労死
- ・赤ちゃんポスト
- ・動物の赤ちゃんが産まれる

る、例えば、家族や教室で実際に死はなかなか直面することはほとんどない。よって、命を死ととらえ、授業を行うとすれば、「命って大切なんだね」と生徒があらかじめ抱いている内容を振り返るだけになる可能性があると思われる。

そこで、本実線では、「命」＝「病気との戦い」あるいは「生き様」としてとらえるようにした。最終的には死が待っている状態でありながら、いかに生きていくかということに注目することができれば、その病気を患っている患者の立場に立って、命に対して親身に考えることができるようになるだろう。あるいは、その病気の原因を探ることで、背景にまで推察することができる考えた。

イ 資料の作成

今回は、四大公害の一つである「イタイイタイ病」を取り上げた。公害「イタイイタイ病」を取り上げたのは以下の理由からである。

- ・ 小学校5年生の社会の授業で公害について触れており、多少の知識がある。
- ・ 患者は、経済発展の犠牲者であるという立場にあり、患者の立場に立ちやすい。
- ・ 今後の自分のあり方として、総合的な学習の時間の職業に絡めて考えやすい。

以上の内容をふまえて、資料を作成した。資料は、以前 NHK で放送された内容で、インターネットに掲載されていたものから抜粋して作製した。

公害を忘れない ～いまイタイイタイ病と向きあう～

2006年5月24日(水)・8月17日(木)

http://www.nhk.or.jp/heart-net/fnet/arch_new/wed/60524.html

また、以下のテーマにそって、資料を分割した。

- ・ 原因と症状
- ・ 実際の生活
- ・ 裁判
- ・ 日本人として

心に響く「道徳の時間」の指導法の工夫

授業の中の展開部分における発問と、その時の生徒の反応は以下のようなだった。

原因と症状の確認

まず、生徒の実態を把握するために、知識の有無を確認した。意外とイタイタイ病を知らない子が多かったことが分かった。小学校の教科書には、公害という名前は載っていても、四大公害は記載されていない。発展学習として扱ったところだけが知っているという状態であった。

イタイタイ病の症状について、「骨が折れやすい」ということを知っている生徒がいたが、どの程度なのか知らない。

そこで、配布された資料を読んで、病気がどの程度折れやすいかを知ることができおた。



【イタイタイ病って知ってる？】

はい 12人

いいえ 25人

- ・公害の一つです。たしか、金属の何か。
- ・骨がもろくなって、折れやすい。
- ・派手に転んだら折れるくらいだと思います。

プリント 配布

- ・ありえん。これじゃあ生活できんじゃん。
- ・つき指とか、ねんざよりもいたいんだよね。
- ・食事とか、呼吸とかはふつうにできるの？

イタイタイ病患者の生活

イタイタイ病患者の症状を知った生徒に、実際の生活について考えさせたところ、クラスの全員が、普通の生活をするのは無理だと思っていた。そこで、ある家庭の家族構成を黒板に板書した。

家族構成

父・・・死

母・・・イタイタイ病患者

子ども（15歳）

子ども（13歳）

子ども（8歳）

【どんな生活しているのかな？】

- ・寝たきり・・・しかできないじゃない。
- ・つきっきりの介護が必要だと思います。

プリント 配布、黒板に家族構成を板書

- ・ムリでしょ。たしかに家族はたいせつだけど、骨折れるんだよ。
- ・お父さん（おじいちゃん）とか来てくれないのかね。というか、お父さんのところに行く。（しばらく沈黙）

【みんなが子どもの立場だったら？】

- ・お手伝いすると思う。今やってないけど。でも、こういう立場だったらやらざるをえない。

黒板に板書をしている途中から、拳手もなく、声が漏れてきた。よほど集中していた様子が伺えた。もし、すべての資料を一度に配布をしていたら、読むことに没頭してしまい、考えることはなかつたろう。資料を配布する前に、家族の様子をイメージすることは、「読みたい」「知りたい」という思いをもたせることができたのではないかと考える。

裁判・認定

「これって、なんか、いじめじゃない？」

生徒から出た意見に驚いた。患者は明らかに弱者である。それを救済するのが国の役割、公の役割である。しかし、なかなか裁判は勝てない。認証してもらえないという事実、自然に声が出てきたのだろう。



【この病気は、普通に生活していたらなってしまうんだから、訴える必要があるよね。お金・・・必要だもんね。どこに訴える？】

- ・工場？工事してた会社？
- ・国か市か。
- ・国に裁判で勝つなんて・・・ムリ。国は、大事にしたくないから、その程度の裁判はもみ消されちゃうと思います。

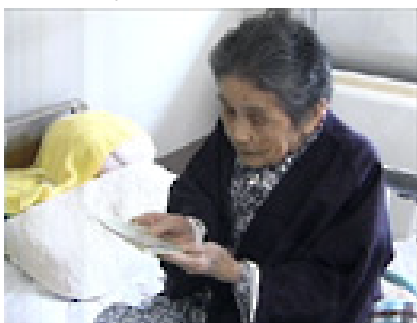
プリント 配布

- ・これって、なんか、いじめじゃない？圧倒的に弱い立場の人に対するいじめのように思う。
- ・国もそうだけど、地域の人もひどいよね。
- ・骨削ったら、余計に健康にならないじゃん。むちゃくちゃ。
- ・死んでから認められてもねえ。

日本人として

他の国よりも早く公害を知っている日本の立場について考えた。この話し合いの内容が、最終的に総合的な学習の時間における将来の自分のあり方について考える基盤となれればと考えた。

今までの社会は、「危険でなければいい」という考えがどこかにあったのだろう。しかし、近年は「安全でなければならぬ」という意見も出てきた。将来のことでもなく、普段の生活も、同じようなことが言えることから、価値のある発言も多く出てきた。



【高度経済成長期、日本はすごく発展したから今の生活があるんだよね。今、世界で、急成長している国があるけど、知ってる？】

- ・中国とか・・・
- ・すげー公害なんだから。ニュースで、空がにごってた。

プリント 配布

- ・日本は、もう公害やっているんだから、これからの国には言っていく。
- ・イタイタイ病とか、公害で苦しむ人のことを考えていないから、金儲けも必要だけど、自分のことだけじゃなくて、もっと考えてほしい。

生徒の変容

授業の終わりに、内容は特に定めず、今、思うこととして感想を書くようにした。総合的な学習の時間で「収入」に強く着目していた子が以下のような思いをもつことができた。

- A 女 「環境と経済は本当に反対するものなのかな。第1に環境を考えていきたいが、経済力も大切。相反するものでなく、両方考えていける職業に就きたい。」
- B 男 「国民の声を尊重し、すべての人が普通に幸せに生活できる社会を目指さなければならぬと思う。」
- C 女 「経済が発展するのも大事だけど、国民のために、戦後、経済を立て直そうとしたのに、公害で国民が苦しむなら意味がない。」

3 成果と課題

成果

- ・資料を与える際に、事前に十分に話し合いが進んでいることで、「事実を確認したい」「早く読みたい」という思いをもたせることができ、生徒は集中して読んでいた。
- ・本実線は「命」を扱った授業であったが、環境問題にも発展し、いじめ問題にも発展した。生徒はそれぞれに弱者を守っていこうという思いをもつことができた。そして、最終的には総合と絡めて感想を書けた子が多く、職場体験学習で介護体験をしてみたいという思いを持つ生徒も出てきた。

課題

- ・資料が幅広い内容であったため、何を伝えようか、明確な課題が定まらなかった。
- ・教師が展開を進めていく上で、かなり強引に引っ張る部分があったので、生徒の思いを読み取って進めていくようにしたい。